あなたのまちのコミュニティ活動情報誌

コミュニティしずおか

2025 4月 No.178

Topics トピックス

クローズアップ …… P2～3
伝統とスポーツの融合（富士市）
地域訪問記 …… P6
コツコツと地域の防災力を高めていこう!（函南町）

コミック のりづき・りえ

大知波桜（おおちば）の郷を目指して

大知波桜を守る会（湖西市）

▼湖西市大知波地区の大神山八幡宮に咲く「大知波桜」は、例年1月下旬に開花を始める市内で一番早く咲く桜。「大知波桜を守る会」は、地元の有志が中心となって2015年に発足し、現在41人で桜を愛護する心を地域に広め、保護と育成に取り組んでいる。

▼原木から苗木を増やし市内外に植樹をしてきた。10年間で増やした大知波桜は251本。「多くの人に知ってもらい、地域の誇りにしていきたい」と寺脇代表。大知波地区が桜で有名になるよう地域振興に貢献していく。

◇代表：寺脇精二さん　（問合せ・090-4184-8294）　【情報提供・片山愛司】

クローズアップ

創意工夫や新しい手法を活かしている団体を紹介します。

左：チェックポイントで証拠写真撮影する親子　右上：スタートする参加者　右下：3度目の正直で優勝した柳島区消火隊

伝統とスポーツの融合：田子浦かるたロゲイニング

富士市

田子浦かるたロゲイニング実行員会

ユニークな住民参加のスポーツを実施しているまちづくり協議会（以下「まち協」）があるとの情報を得て、田子浦まちづくりセンターを訪ねました。令和4年度から始まったロゲイニング（地図をもとに時間内にチェックポイントを回り得点を集めるスポーツ）と地域かるたを融合させた「田子浦かるたロゲイニング」について、まち協の柿並会長、実行委員会の幾見委員長、センター勤務の西村上席主事からお話を聞きました。

イベントを始めた経緯

田子浦港の西側に広がる田子の浦地区は、人口15,000人（6,500世帯）が住む住宅と工場が混在している地区。コロナ禍でマラソン大会が中止され5類移行後も参加者が戻らないことから、まち協ではこれから何をしたら良いかを考えました。

少人数で参加でき、多世代が楽しめるロゲイニングに、地区の歴史や伝統を感じる場所56ヵ所を選出し当時の小学6年生に絵を描いてもらって令和元年に制作した「田子浦かるた56」を組み合わせ、身体を動かし

ながら自分の地域についてもっと知ってもらうスポーツイベントに決まりました。

競技としての田子浦かるたロゲイニング

１チームは3人～5人で編成し、家族や友人同士で子どもから高齢者まで参加できます。「かるた」の中から選出された30ヵ所のチェックポイントマップを片手に、各ポイントを訪れた証拠写真を撮りながら、2時間以内に回ります。「遠い場所の得点が高いとは限りません」ニヤリとする幾見さん。「巡る順番や経路、時間配分、チームワークが大切な競技です」と西村さん。各ポイントの得点はゴールしてからでないとわからないので、より多く回るチームが有利です。

3回目となる今年は3月2日に開催し40チーム151人が参加。23か所を回った「柳島区消火隊」チームが「97点」で優勝。上位3チームには田子浦産のお米3キロを人数分贈呈されました。最下位は制限時間を8分オーバーし「－160点」となってしまった中学生チーム。もっと地域を知ろうね！と「田子浦かるた56」が贈呈されました。

実行委員会

気になる運営費は、まち協の行う健康づくり事業の予算が充てられています。実行委員会はまち協のスタッフが兼務し13人。当日は、田子浦地区16自治会の各区長等このイベントを安全に実施する為に総勢40人が動いています。証拠写真の撮影や得点の集計は、参加者を信じてお任せにすることでスタッフの人数や負担を軽減。最後の抽選会は、支える側も楽しい気持ちで終われるようスタッフも参加できるようにした。そんなアイディアを出す幾見さんは、1週間前から何回かに分けて全てのチェックポイントを周り、当日配布するチェックポイントマップと違いが無いか確認。大変な努力をされています。

これから

マラソン大会は他地区からの参加者が多かったので、地区在住・在勤の方のみを対象にしたロゲイニングの方が地区への貢献度が高いと感じているそうです。「田子浦の魅力が再発見できた」「地域のことを知る良い機会になりました」「楽しく運動不足が解消出来てうれしい」等参加者のアンケート結果からも新たな発見をしつつ仲間との交流を楽しんでいることがわかり、まち協の狙いが達成できています。

かるたは松林版とみなと版の2種類ある

参加者のレベルが上がって来たので今後はチェックポイントの地図表記を無くすとか、クイズを追加するなどを考えているとのお話でした。地域の新しい発見をしながら健康増進にもなるという一石二鳥のイベントは、随所に工夫が見られ、他の地区でも大いに参考になるスポーツイベントだと納得がいった取材でした。

左から、西村さん、柿並会長、幾見実行委員長

◇実行委員長：幾見和宏さん
（問合せ・0545-63-5209（田子浦まちづくりセンター））
【情報提供・齋藤立己】

まち協HP　Instagram

レポート：峰野　勇 編集委員

まちからむらから

伊豆の国市 地域がつながる公民館

山の学習スペース「やまっこ」

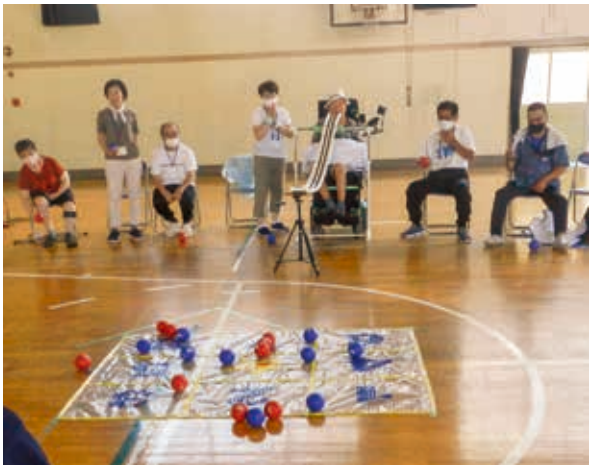
クリスマスイベントで高齢者宅を訪問する子どもたち

▼大仁駅から車で15分の山間に56世帯が住む田原野地区がある。令和6年7月、公民館の建て替えをきっかけに地域の保護者が立ち上がり子どもたちの居場所「やまっこ」が開設された。田原野地区と浮橋地区の小、中、高生を対象に、毎週月曜日の放課後10人近い子どもたちが宿題やボードゲーム等をして過ごしている。
▼子ども会会長でもある代表の西島さんは、昼間の使用頻度が低い公民館を、放課後や長期休みの子どもの居場所として、有効活用できないか？と思いつき区長へ相談。地域の理解と協力を得て、子ども会と育成会と連携しながら活動をしている。
▼また、地域の大人と子どもの交流の場として地域がつながる公民館を目指していることから、昨年12月には、やまっこの子どもたちがサンタになり高齢者宅を訪問。手紙等のプレゼントを渡し喜ばれた。「他の地区でも公民館を活用したこんな居場所が広がると嬉しいです」と西島さんは語る。
◇代表：西島ゆかりさん　【情報提供・柴田三智子】

静岡市 障がい者と輪になって

長田東社会福祉協議会レクスポ部

▼駿河区にある長田東社会福祉協議会では、障がい者の方が気軽にスポーツを楽しみながら地域社会と繋がり交流を図れるよう、毎月第2木曜日と日曜日の午後に、長田東小学校や長田保健福祉センターで、ボッチャやフライングディスクを行っている。
▼2000年頃から「レクスポ障がい者スポーツ」という市民活動としてフライングディスクを行っていたが、社協関係者がスタッフに加わったことで、2019年に社協の部会として認めてもらい、安定して活動ができるようになった。
▼現在スタッフは12人。障がいのレベルに合わせた道具の工夫や、ボッチャにビンゴゲームを加えた遊びを考案するなど熱心に活動している。日によってはスタッフが足りない等の課題があり、この活動をPRしていく事が必要だと思っている。障がい者の方と親御さん、そしてスタッフのみんなで輪になって賑やかに声を出し合い「地域で支える福祉社会」を目指していく。
◇レクスポ部長：望月秀一さん　【情報提供・吉田敏明】


オリジナルボッチャで盛りあがる参加者

島田市 定年後の居場所をつくり健康で明るく暮らす

居場所「ちゃのみ」

コントラバスと電子ピアノの生演奏で合唱練習

▼川根地区家山の野守の池の湖畔にある西向集会所は、毎週金曜日になると9時から始まるサロン活動「ちゃのみ」を楽しみに高齢者がやって来る。軽体操で体をほぐした後は、合唱や折り紙アート、脳トレ、数少ない男性参加者は真剣な顔つきで麻雀パイを動かしている。対象者は「自分で会場に来れる人」で毎回15人前後が参加している。
▼65歳の定年を前に、定年後の自分の居場所について考えた代表の西村さんは同級生3人で相談し、健康で明るく暮らす人生を送るような仲間づくりを目的に2016年に活動をスタート。現在、スタッフは7人で、皆さん特技を生かし講師としても活躍をしている。
▼「アルミ缶を回収し活動資金に充てています」と代表。地域の理解を得て、開催日になると住民からアルミ缶が届くという。売却収入を社協の補助金にプラスして、サロンは参加費無料で開催できているとのこと。住民からの応援にとても感謝している。
◇代表：西村純一さん（問合せ・090-4164－7029）
【情報提供・池田　弘】

掛川市　倉真（くらみ）地区の宝　クマガイソウ

倉真クマガイソウ保存会

Facebook

クマガイソウの手入れをする会員

▼掛川市倉真地区には、独特な花の形をしたクマガイソウが自生している。絶滅危惧種に指定されているクマガイソウは、滅多に見られないことから是非一度見てみたいという声が多く聞かれていた。そのような中、容易に見られる自生地を見つけたことから令和5年に地元有志で保存会を発足し、一般公開に踏み切った。同会は、自生地の保護、繁殖に取り組んでいる。
▼周囲からは、盗掘を心配して反対意見もあったが、是非見てみたいという多くの声を聴き、公開を決断した。マスコミの協力により県内外から多くの見学者が訪れている。こうした見学者にゆっくり楽しんでいただこうと、昨年の夏に2か月間かけて休憩所を設けた。
▼みなさんから「初めて見ることができた」「来年も楽しみにしています」などと声をかけられ「この活動をしてよかった。みなさんに、より楽しんでいただくために、さらに株を増やしていきたい」と佐藤代表は抱負を語った。
今年も開花時期の4月には昨年以上に多くの見学者が訪れることでしょう。
◇代表：佐藤典雄さん（問合せ・080-5131-0232）

【情報提供・加藤和男】

森町　ダウン症児の家族の集い

ノエルの会

▼2014年に発足したダウン症児を持つ家族が集うノエルの会は、子育てに悩む親たちの情報交換や子も親ものびのび過ごせる場づくりを目的に活動をしており、中遠地域の38組の家族が会を通じて繋がっている。
▼きっかけは、代表の森重さんのお孫さんがダウン症で生まれたこと。当初は月1回の交流だったが、子どもの成長と共に運営側も参加者も生活スタイルが変化したことで現在は2～3ヶ月に1回活動している。年に1回、障がいの有無に関係なく誰もが楽しめる「リコリコふれんどパーク」を森町大門東公園で開催。毎年600人程が参加し、今では子どもたちが帰りたがらないイベントになった。
▼「公園で遊ぶことを躊躇しているご家族がいる。その現実を知り公園での開催にこだわっています」と森重さん。現在は森重さんと娘さんが中心となっているが、この会を継続していくためにも参加者自らが企画運営に携われるように発展していくことを目指していく。
◇代表：森重美智子さん（問合せ・090-7617-5531）【情報提供・山田勝恵】

定例会で思い切り遊ぶ親子

地域活動情報

この詳細はホームページでご覧になれます（アドレス　http//www.sizcom.jp ）

No.	市町	活　動　名	主　催　者	趣旨・目的	情報通信員
1	松崎町	ウォーキングでつながろう	松崎歩こう会	ウォーキングを生涯スポーツとして実践し、自然と親しみ史跡を訪れ、より心豊かで健康な生活を求める	土屋武彦
2	牧之原市	勝間田城跡見学ツアーと 限定御城印販売城下楽市	牧之原御城印製作委員会	勝間田城の魅力を発信するために御城印を制作販売	武田てるみ
3	牧之原市	令和6年度全国あしたのまち・くらしづくり 活動賞　振興奨励賞受賞	勝間田区絆づくり事業	勝間田を元気にする活動をする	武田てるみ
4	掛川市	小さな始まりで人の輪が広がる仲見世	中幼稚園跡地を活用する会	園舎を活用して「仲見世」を開き活用し多くの区民が世代間交流と地域活性化を目指す	安藤ミエ
5	磐田市	遊びを通じて普段の日常生活の中では体験できない体験をする	みんなでうさぎ山を楽しむ会	児童の発達によりよい環境を与えるための各種事業を推進	安部詠司
6	磐田市	福田コットンプロジェクト	遠江福田懇談会 福田コットンプロジェクト	「歴史を学び綿から糸へそして布へ」の工程を土から体験する機会を設ける	安部詠司
7	菊川市	アートコラール 10 周年記念交流会	NPO法人アートコラールきくがわ	「出会いとつながりをデザイン」をモットーに活動する中間支援団体	鈴木貫司

地域訪問記

長く続いている団体を紹介します。

2019年の
台風19号で
ボランティアの受け入れを
行っている様子

大人と一緒に
養成講座を
受講する高校生

左から
鎌野さん
田中さん
奈良さん

コツコツと地域の防災力を高めていこう！

災害ボランティアネットワーク函南（函南町）

伊豆半島の玄関口にある函南町は、2019年10月の台風19号で大きな被害を受けました。この時、活躍したのが「災害ボランティアネットワーク函南」の皆さんです。会長の奈良さん、副会長の田中さん、会計担当の鎌野さんに活動の様子やそれぞれの思いを聞きました。

「災害ボランティアネットワーク函南」はどんな団体？

災害時に町と連携し、災害ボランティア本部の開設とボランティアコーディネーターとして運営の中核を担う団体です。1995年の阪神・淡路大震災をきっかけに前身団体が発足し、2004年に函南町の地域防災計画に現在の団体名が明記されました。

会員は町社協と共催する「災害ボランティアコーディネーター養成講座」の修了生からなり、現在37人で約8割が男性。平均年齢はおよそ60歳。年会費は1,000円（保険代含む）で、毎月1回の定例会の他、養成講座の準備、総合防災訓練への参加、イベントでの啓発活動等をしています。

台風19号での始動

発災当初、2地区での浸水被害を聞いた奈良さんは、救済申請書を持って区長を訪ね町内会に配ってもらったと言います。ボランティア本部が立ち上がると、町社協のスタッフと一緒にボランティアの受け入れと派遣に取組みました。鎌野さんは自宅が床上浸水し、ボランティアが来て片付けが始まりとても助かったと言います。近所の方から「助けてもらうのにお金はかかるの？」と質問されたと言い「自分たちの活動や自分の体験を伝えることが大事ですね」と話します。「ニーズに合ったボランティアを派遣する余裕が無く、目の前の要望にただ派遣するしかできなかった」と田中さん。2週間で250人のボランティア（町内100人、町外150人）をコーディネートし活動は終わりました。

今できることをコツコツと続ける

函南町民向けに「私たちの町に災害が起こったら…」というチラシを作成し、イベント時に配布しています。表面には災害ボランティアの組織図や依頼・支援方法の説明が書かれ、裏面は「ボランティア依頼ニーズ受け付けカード」になっていて被災したらすぐに提出できるようにしました。

また、定例会の「タウンウォッチング」では、防災の視点で町内を歩き、普段使わない迂回路などを地図に記録し備えています。

地域の防災力を高めていこう！

21年間の活動で、町や社協に自分たちの思いを伝え連携の強化につなげてきました。協定も結ばれ自分たちの活動が安心してできるようになりました。「大規模災害の時には町外からの災害ボランティアの支援は期待できません。町民同士、隣近所で助け合っていくしかないのです。町全体の意識の底上げのために養成講座を受けて欲しいですね」と奈良さんは語ります。

皆さんに団体のこれからについてお聞きすると、満場一致で「ぜひ若い人にも仲間になってほしい」との声が上がりました。養成講座は大人に混ざって高校生も受講しています。修了生の若者が一緒に活動してくれる日を会員の皆さんは楽しみにしています。

◇会長：奈良直人さん（問合せ・090-7024-5735）

【情報提供・太田輝彦】

レポート：矢野さちこ　編集委員

コミュニティ・フォーラム2025を開催しました

迫りくる大災害！そのときコミュニティは！？
～地域防災と超高齢社会における共助を考える～

当協議会では、県民の地域コミュニティ活動に対する機運を盛り上げ、全県的に推進していくため、毎年、「コミュニティ・フォーラム」を開催しています。本年度は2月15日（土)に磐田市のワークピア磐田で開催しました。防災がテーマだったことから磐田市を中心に防災に携わる方の参加が多くみられ、県内各地から186人の参加がありました。このフォーラムの様子は、YouTubeにてご覧いただけます。

令和6年度コミュニティ活動賞　表彰

優秀賞3団体、優良賞5団体が表彰されました。優秀賞の団体は、事例発表で、活動紹介をしていただきました。

基調講演

跡見学園女子大学　鍵屋 一教授
「いつか来るその日に備えて」と題しご講演いただきました。

パネルディスカッション

当協議会推進専門委員の伊藤先生がコーディネーターとなり、富士市西宮島区の廣瀬区長、復幸ボランティアやらざあ駿河の藤澤共同代表、コミカレ・ねっとわーくの安部会長から、超高齢社会における共助のあり方を含め地域の防災力を高めるヒントになるお話を引き出していただきました。

能登半島震災義援金のご協力ありがとうございました！
参加者のお気持ち5500円を静岡県社会福祉協議会へ寄付いたしました

←当協議会YouTubeちゃんねる

常務のつ・ぶ・や・き

近年、自治会や子ども会離れが進んでいるようだが、いざという時のために“ご近所の絆”は維持しておきたい。フォーラムで鍵屋先生は「日常から地域の人たちと良好な関係を築いておくことは、誰一人取り残さない魅力ある地域社会につながり、災害や危機にも強くなる」と話された。年度替わりで環境が変化することの多いこの時期、時間に余裕のできた方は、ご近所の皆さんと様々な活動を通じて一緒に過ごす時間を作ってみてはいかが。

うまく活動情報が得られなければ、当協議会のホームページを見たり、ご相談を。是非、隣近所で声を掛け合う住みよい地域づくりを進めて、心豊かで安全・安心な生活を送りましょう。

私、白井もこの春、環境に変化があり、今回が最後の“つぶやき”です。3年間、ありがとうございました。

地域情報をお寄せ下さい!

静岡県コミュニティづくり推進協議会

〒420-0856
静岡市葵区駿府町1−70 総合社会福祉会館3階
【TEL】054-251-3585
【FAX】054-250-8681
【URL】http://www.sizcom.jp
【E-mail】sizucom0829@po.across.or.jp

峰野勇さん、矢野さちこさん両編集委員は、この号をもって退任されます。
2年間ありがとうございました。

地域活動に関心のある方へ！

募集します

※お問い合わせ、お申し込みは当協議会へ

活動資金の一部を助成します！
★コミュニティ活動集団育成事業

趣　旨

この事業は、人々が協力し合って住みよい地域をつくるために活動する集団を「コミュニティ活動集団」として2年間指定し、活動に必要な経費の一部を助成することによって、地域のコミュニティ活動における先導的役割を担う活動集団の育成支援を行うものです。

指定の期間　毎年度4月から次年度3月までの2年間とします。
活動経費の助成　募集集団数10集団。活動経費として1集団当り、初年度7万円、翌年度3万円を助成します。
活動集団の指定　申込みに対してその内容を審査し、指定します。
募集期間　4月中旬～6月中旬

指定決定した団体には、より良い活動となるよう専門委員からのアドバイスが受けられられます。

余裕をもってお申し込みください

【静岡県からのお知らせ】
WEB広告をきっかけとする消費者トラブルにご注意ください！

県民生活課です。社会のデジタル化に伴い、WEB広告やSNSをきっかけとする消費者トラブルが、全ての世代で増加しています！

そこで静岡県では、県内の学生と協働で消費者被害防止啓発動画『ちょっと待った！やばみちゃんファミリー』を制作しました。2分程度の短い動画で、消費者トラブルに遭わないためのポイントをご確認いただけます。是非ご覧ください♪

啓発動画はこちら

▼偽サイト編　▼投資トラブル編　▼定期購入トラブル編